

- 安全な生産資材の導入、放射性物質による汚染の軽減
- 野生の山菜やきのこの採取に関する情報提供

## 具体的な取組

1. 安全なきのこ原木の確保  
(きのこ原木・ほだ木の購入支援、きのこ原木の需給のマッチング)
2. きのこと原木・ほだ木の除染や簡易ハウス等の導入
3. ガイドラインに沿った栽培管理の普及・指導
4. 放射性物質の汚染を低減させる栽培技術の普及
5. ホームページ、パンフレットによる情報発信、巡回指導



# (参考) きのこ原木等の当面の指標値

- きのこ原木や菌床などは全国に流通する可能性。
- 安全なきのこを供給するため、きのこ原木・菌床などの安全基準として当面の指標値を設定。

当面の指標値 (H24.4月～)	
きのこ原木及びほだ木	50 Bq/kg
菌床用培地及び菌床	200 Bq/kg

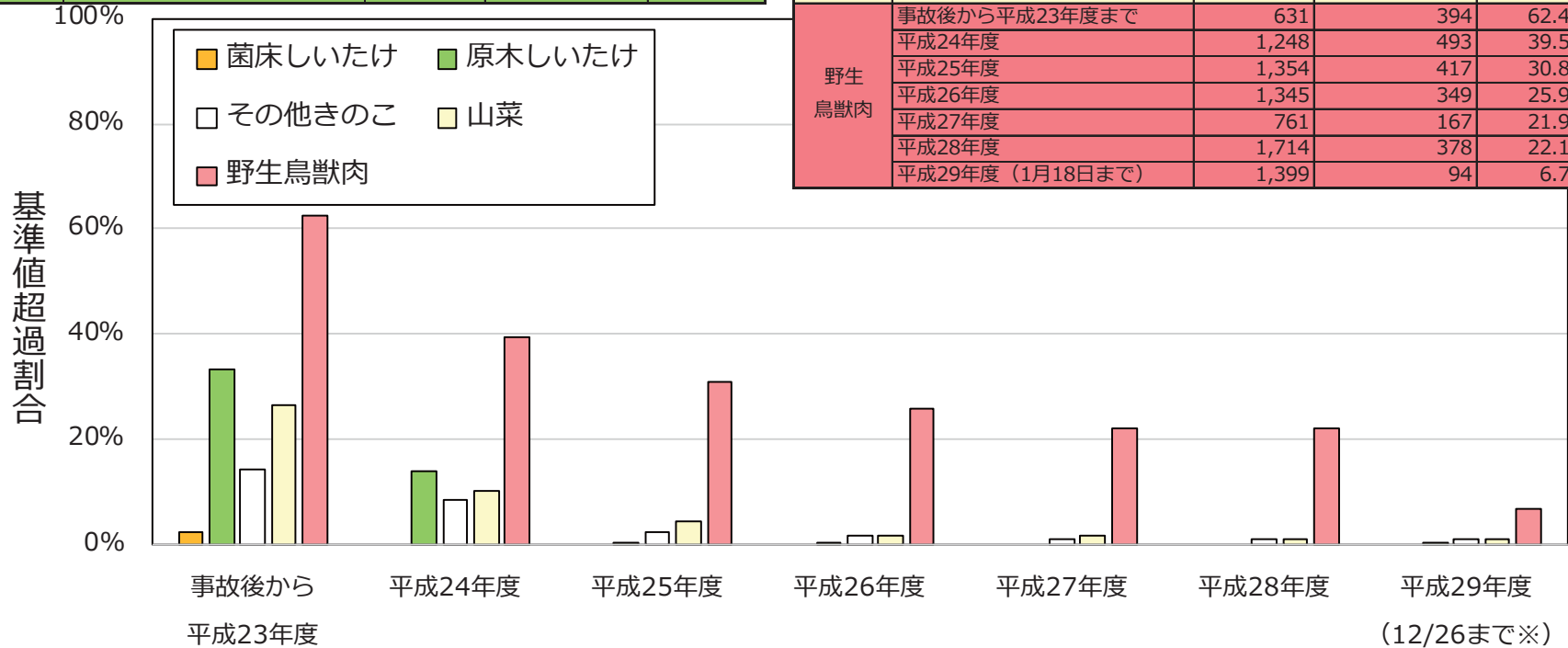
ほだ木:きのこ原木にきのこの菌を植えたもの

菌床:おが粉や栄養材等を混合した培地にきのこの菌を植えたもの

# きのこ類、山菜、野生鳥獣肉

	検査期間	検査点数	基準値超過点数	超過割合
菌床しいたけ	事故後から平成23年度まで	358	9	2.5%
	平成24年度	868	0	0%
	平成25年度	869	0	0%
	平成26年度	830	0	0%
	平成27年度	754	0	0%
	平成28年度	617	0	0%
	平成29年度（12月26日まで）	435	0	0%
	原木しいたけ	事故後から平成23年度まで	1,093	364
平成24年度		1,513	213	14.1%
平成25年度		1,298	2	0.2%
平成26年度		1,996	3	0.2%
平成27年度		2,139	0	0%
平成28年度		2,362	0	0%
平成29年度（12月26日まで）		1,947	4	0.2%

	検査期間	検査点数	基準値超過点数	超過割合
その他きのこ	事故後から平成23年度まで	1,881	268	14.2%
	平成24年度	2,257	195	8.6%
	平成25年度	2,230	50	2.2%
	平成26年度	2,169	38	1.8%
	平成27年度	2,117	24	1.1%
	平成28年度	2,084	23	1.1%
	平成29年度（12月26日まで）	1,641	16	1.0%
	山菜	事故後から平成23年度まで	524	138
平成24年度		1,950	197	10.1%
平成25年度		3,184	142	4.5%
平成26年度		3,562	62	1.7%
平成27年度		3,423	63	1.8%
平成28年度		4,178	46	1.1%
平成29年度（12月26日まで）		3,029	34	1.1%
野生鳥獣肉		事故後から平成23年度まで	631	394
	平成24年度	1,248	493	39.5%
	平成25年度	1,354	417	30.8%
	平成26年度	1,345	349	25.9%
	平成27年度	761	167	21.9%
	平成28年度	1,714	378	22.1%
	平成29年度（1月18日まで）	1,399	94	6.7%



※集計対象：食品中の放射性物質に関する「検査計画、出荷制限等の品目・区域の設定・解除の考え方」において、検査対象自治体となっている17都県

※野生鳥獣肉のみ1月18日までのデータを掲載  
農産物に含まれる放射性セシウム濃度の検査結果（農林水産省）、食品中の放射性物質の検査結果について（厚生労働省）より作成